

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（商品）／インデックス型
信託期間	無期限（設定日：2021年8月23日）
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、金地金価格との連動を目指す投資信託証券に投資し、LBMA金価格（円ヘッジ換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指します。
主要投資対象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 ゴールド・インデックス・マザーファンド iShares Gold Trust （iシェアーズ ゴールド・トラスト） SPDR Gold MiniShares Trust （SPDR® ゴールド・ミニシェアーズ・トラスト）
当ファンドの運用方法	■LBMA金価格（円ヘッジ換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指します。 ■マザーファンドが投資対象とする投資信託証券は、継続的にモニタリングを行い、商品性および運用上の効率性を損なわない範囲で、委託会社の判断により見直しを行うことがあります。 ■実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
組入制限	当ファンド ■外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 ゴールド・インデックス・マザーファンド ■外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	■年1回（原則として毎年11月30日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 （ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 （基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

三井住友DS・ゴールド インデックス・ファンド （為替ヘッジあり） 【運用報告書（全体版）】

（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

第 2 期
決算日 2022年11月30日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、金地金価格との連動を目指す投資信託証券に投資し、LBMA金価格（円ヘッジ換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

三井住友DS・ゴールドインデックス・ファンド（為替ヘッジあり）

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 設定以来の運用実績

決算期	基準価額			(ベンチマーク) LBMA金価格(円ヘッジ換算ベース)		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税金 込金	期騰 落率	騰 落	中 率		
(設定日) 2021年8月23日	円 10,000	円 —	% —	100.00	% —	% —	百万円 1
1期(2021年11月30日)	9,748	0	△2.5	100.28	0.3	101.0	37
2期(2022年11月30日)	9,277	0	△4.8	96.08	△4.2	99.0	335

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※ベンチマークは、当報告書作成時に知りえた情報をもとに当社が独自に計算し、設定時を100として、指数化しています。なお、基準価額の反映を考慮した日付の値を使用しています。

※LBMA金価格(円ヘッジ換算ベース)とは、ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッド(ICE Benchmark Administration Limited)が算出し公表している指数(LBMA金価格)をもとに、委託会社が計算したものです。ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッドは、LBMA金価格及びLBMA金価格が示す、あらゆる特定の日、特定の時点における数値により生じた結果について、明示的又は暗示的に、何ら保証するものではありません。ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッドは、当ファンドに関する商品性や特定目的への適合性について、明示的又は暗示的に、何ら保証するものではありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		(ベンチマーク) LBMA金価格(円ヘッジ換算ベース)		投資信託証券 組入比率
	騰 落	率	騰 落	率	
(期首) 2021年11月30日	円 9,748	% —	100.28	% —	% 101.0
12月末	9,835	0.9	100.69	0.4	98.7
2022年1月末	9,738	△0.1	100.32	0.0	99.5
2月末	10,282	5.5	105.72	5.4	98.2
3月末	10,488	7.6	108.54	8.2	102.0
4月末	10,231	5.0	105.66	5.4	98.4
5月末	10,035	2.9	103.83	3.5	97.5
6月末	9,826	0.8	101.49	1.2	102.4
7月末	9,467	△2.9	97.79	△2.5	97.7
8月末	9,277	△4.8	96.23	△4.0	100.5
9月末	8,899	△8.7	91.62	△8.6	100.0
10月末	8,778	△10.0	90.97	△9.3	98.4
(期末) 2022年11月30日	9,277	△4.8	96.08	△4.2	99.0

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	9,748円
期末	9,277円 (既払分配金0円(税引前))
騰落率	-4.8% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドのベンチマークは、L BMA金価格(円ヘッジ換算ベース)です。

※L BMA金価格(円ヘッジ換算ベース)とは、ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッド(ICE Benchmark Administration Limited)が算出し公表している指数(L BMA金価格)をもとに、委託会社が計算したものです。ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッドは、L BMA金価格及びL BMA金価格が示す、あらゆる特定の日、特定の時点における数値により生じた結果について、明示的又は暗示的に、何ら保証するもので

三井住友DS・ゴールドインデックス・ファンド（為替ヘッジあり）

はありません。ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッドは、当ファンドに関する商品性や特定目的への適合性について、明示的又は暗示的に、何ら保証するものではありません。

基準価額の主な変動要因(2021年12月1日から2022年11月30日まで)

当ファンドは、ゴールド・インデックス・マザーファンドへの投資を通じて、金地金価格との連動を目指す投資信託証券に投資し、実質組入外貨建資産について原則として対円での為替ヘッジを行うことにより、ロンドン貴金属市場協会(以下LBMA)金価格(円ヘッジ換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指して運用を行いました。

上昇要因

- 新型コロナの変異ウイルス(オミクロン型)の感染拡大懸念から安全資産需要が高まったこと
- ロシア・ウクライナ情勢の悪化による地政学リスクの上昇から、安全資産需要や資源価格、インフレ懸念が高まったこと

下落要因

- 金融引き締め観測が高まったこと
- 米国長期金利(10年国債利回り)、および米ドルの上昇が進行したこと

投資環境について（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

期間における金地金価格（米ドルベース）は、下落しました。

金市場

期間の初めから2022年3月にかけては、インフレに対する警戒感、新型コロナウイルスの変異ウイルス（オミクロン型）の感染拡大を受けた安全資産需要、およびロシアのウクライナ侵攻による地政学リスクの高まりに伴った株式市場の下落・資源価格の上昇を受けて、金地金価格は上昇しました。

その後は、パウエルF R B（米連邦準備制度理事会）議長が利上げ継続によるインフレ

抑制への強い姿勢を明確にしたことで、米国の長期金利の上昇が進行し、金地金価格は下落に転じました。

10月まで下落基調で推移しましたが、11月には物価指標が市場予想を下回ったことでインフレのピークアウトが意識されたことに加え、F R B高官から利上げペースの鈍化を示唆する発言が相次いだことから、米国の長期金利が低下し、金地金価格は反発して期間末を迎えました。

ポートフォリオについて（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

当ファンド

ゴールド・インデックス・マザーファンドへの投資を通じて、金地金価格との連動を目指す投資信託証券に投資し、実質組入外貨建資産について原則として対円での為替ヘッジを行うことにより、L B M A金価格（円ヘッジ換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行いました。

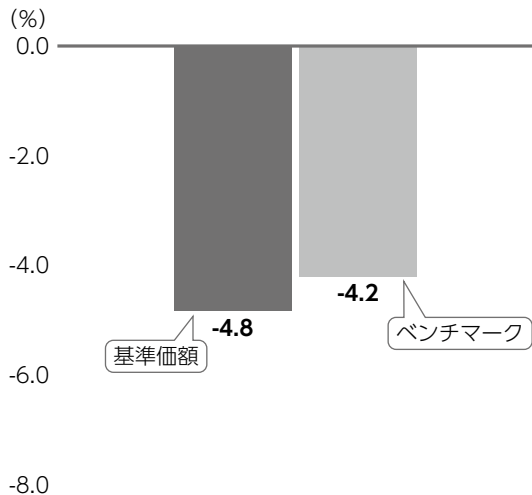
ゴールド・インデックス・マザーファンド

●ポートフォリオの特性

金地金価格との連動を目指す投資信託証券に投資することにより、L B M A金価格（円換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行いました。

ベンチマークとの差異について（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

基準価額とベンチマークの騰落率対比



当ファンドは、LBMA金価格(円ヘッジ換算ベース)をベンチマークとしています。

左のグラフは、基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。

※基準価額は分配金再投資ベース

ベンチマークとの差異の状況および要因

基準価額の騰落率は-4.8%（分配金再投資ベース）となり、ベンチマークの騰落率-4.2%を0.6%下方乖離しました。

下方乖離要因

- 投資している投資信託証券（ニューヨーク16時）とベンチマーク（ロンドン15時30分）との評価時間が大きく離れており、今回は下方乖離したこと

分配金について（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

（単位：円、1万口当たり、税引前）

項目	第2期
当期分配金	0
（対基準価額比率）	（0.00％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	0

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の期末基準価額（分配金（税引前）込み）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

ゴールド・インデックス・マザーファンドへの投資を通じて、金地金価格との連動を目指す投資信託証券に投資し、実質組入外貨建資産について原則として対円での為替ヘッジを行うことにより、LBMA金価格（円ヘッジ換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。

ゴールド・インデックス・マザーファンド

金地金価格との連動を目指す投資信託証券に投資することにより、LBMA金価格（円換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

三井住友DS・ゴールドインデックス・ファンド（為替ヘッジあり）

1万口当たりの費用明細（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	37円	0.385%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（経過日数／年日数） 期中の平均基準価額は9,738円です。
（投信会社）	(18)	(0.181)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(18)	(0.181)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.022)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	17	0.177	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（株式）	(-)	(-)	売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(-)	(-)	
（投資信託証券）	(17)	(0.177)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
（株式）	(-)	(-)	有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（公社債）	(-)	(-)	
（投資信託証券）	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.026	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.017)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.006)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(0)	(0.004)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	57	0.588	

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

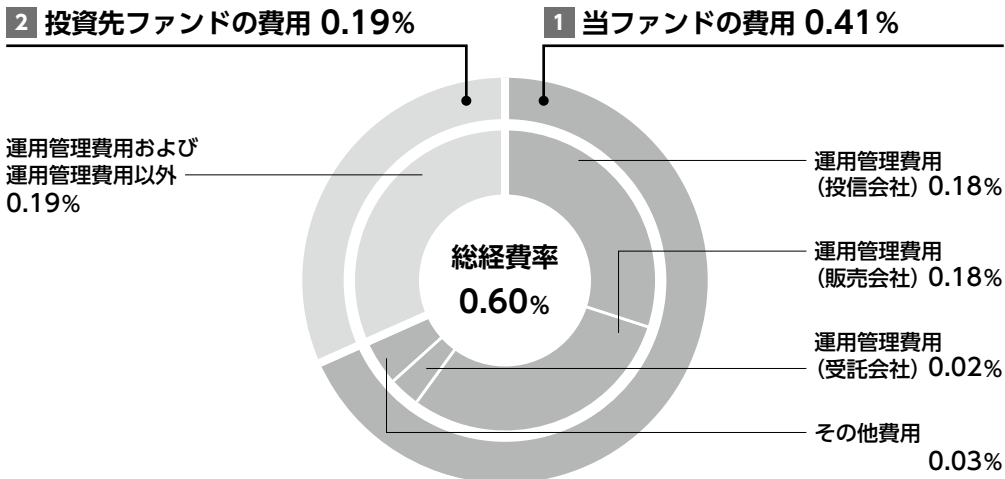
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。なお、マザーファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用は含みません。



参考情報 総経費率（年率換算）



総経費率 (1 + 2)	0.60%
1 当ファンドの費用の比率	0.41%
2 投資先ファンドの費用の比率	0.19%

※1の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※2の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く)または、マザーファンドが組み入れている投資信託証券)の費用は、実際に投資しているシェアクラスのデータが入手できない場合は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算したものです。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できない場合は、まとめて表示しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は0.60%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ゴールド・インデックス・マザーファンド	千口 336,322	千円 391,803	千口 92,468	千円 107,637

■ 利害関係人との取引状況等（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 自社による当ファンドの設定・解約状況（2021年12月1日から2022年11月30日まで）

期首 (元)	残高 (本)	当 元	期 設 定 本	当 元	期 解 約 本	期末 (元)	残高 (本)	取 引 の 理 由
	百万円 1		百万円 -		百万円 1		百万円 -	当初設定時または当初運用時における取得等

■ 組入れ資産の明細（2022年11月30日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首(前期末)		期 末	
	口 数	金 額	口 数	評 価 額
ゴールド・インデックス・マザーファンド	千口 37,386	千円 281,240	千口 334,057	千円 334,057

※ゴールド・インデックス・マザーファンドの期末の受益権総口数は3,178,413,029口です。

■ 投資信託財産の構成

（2022年11月30日現在）

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
ゴールド・インデックス・マザーファンド	千円 334,057	% 99.3
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	2,493	0.7
投 資 信 託 財 産 総 額	336,550	100.0

※ゴールド・インデックス・マザーファンドにおいて、期末における外貨建資産（3,745,852千円）の投資信託財産総額（3,829,794千円）に対する比率は97.8%です。

※外貨建資産は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=138.87円です。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

（2022年11月30日現在）

項 目	期 末
(A) 資 産	662,591,736円
コール・ローン等	107,332
ゴールド・インデックス・マザーファンド(評価額)	334,057,286
未 収 入 金	328,427,118
(B) 負 債	327,109,404
未 払 金	326,040,745
未 払 解 約 金	572,472
未 払 信 託 報 酬	485,845
そ の 他 未 払 費 用	10,342
(C) 純 資 産 総 額(A - B)	335,482,332
元 本	361,645,871
次 期 繰 越 損 益 金	△ 26,163,539
(D) 受 益 権 総 口 数	361,645,871口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C / D)	9,277円

※当期における期首元本額38,535,757円、期中追加設定元本額379,344,235円、期中一部解約元本額56,234,121円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

（自2021年12月1日 至2022年11月30日）

項 目	当 期
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	△15,853,976円
売 買 益	35,634,889
売 買 損	△51,488,865
(B) 信 託 報 酬 等	△ 631,968
(C) 当 期 損 益 金(A + B)	△16,485,944
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 585,263
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 9,092,332
(配 当 等 相 当 額)	(△ 216)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 9,092,116)
(F) 合 計(C + D + E)	△26,163,539
次 期 繰 越 損 益 金(F)	△26,163,539
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 9,092,332
(配 当 等 相 当 額)	(△ 276)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 9,092,056)
繰 越 損 益 金	△17,071,207

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	0
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	0
1 万 口 当 た り 当 期 分 配 対 象 額	0.00
(f) 分配金	0
1 万 口 当 た り 分 配 金	0

■ 分配金のお知らせ

1 万 口 当 た り 分 配 金（税引前）	当 期
	0円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

ゴールド・インデックス・マザーファンド

第1期（2021年8月3日から2022年8月1日まで）

信託期間	無期限（設定日：2021年8月3日）
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ L B M A 金価格（円換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。 ■ 組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		(ベンチマーク) L B M A 金 価 格		投 資 信 託 純 証 券 組 入 総 比 率	資 産 額
	期 騰 落	中 率	(円換算ベース)	期 騰 落		
(設 定 日) 2021年8月3日	円 10,000	% —	100.00	% —	% —	百万円 1
1 期 (2022年8月1日)	11,465	14.7	117.67	17.7	98.9	2,246

※ベンチマークは、当報告書作成時に知りえた情報をもとに当社が独自に計算し、設定時を100として、指数化しています。なお、基準価額の反映を考慮した日付の値を使用しています。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

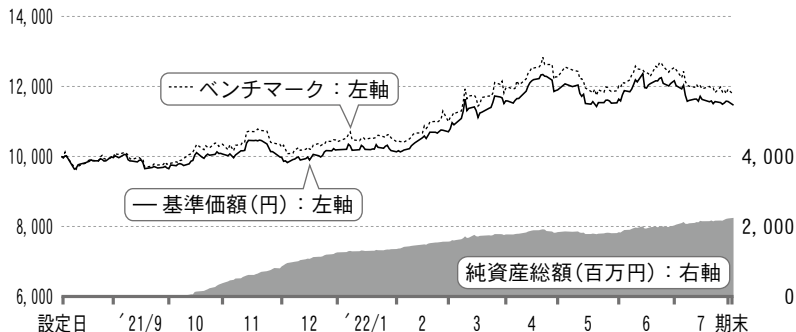
年 月 日	基 準 価 額		(ベ ン チ マ ー ク) L B M A 金 価 格 (円換算ベース)		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	
(設 定 日) 2021年 8 月 3 日	円 10,000	% —	100.00	% —	% —
8 月 末	9,967	△ 0.3	99.80	△ 0.2	96.5
9 月 末	9,650	△ 3.5	98.17	△ 1.8	95.3
10 月 末	10,069	0.7	103.51	3.5	109.4
11 月 末	9,973	△ 0.3	102.60	2.6	101.7
12 月 末	10,191	1.9	104.21	4.2	98.2
2022年 1 月 末	10,133	1.3	104.23	4.2	99.2
2 月 末	10,706	7.1	109.97	10.0	98.4
3 月 末	11,590	15.9	119.51	19.5	98.9
4 月 末	11,901	19.0	122.70	22.7	98.0
5 月 末	11,638	16.4	120.08	20.1	98.4
6 月 末	12,163	21.6	125.45	25.5	100.5
7 月 末	11,572	15.7	119.18	19.2	100.1
(期 末) 2022年 8 月 1 日	11,465	14.7	117.67	17.7	98.9

※騰落率は設定日比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について（2021年8月3日から2022年8月1日まで）

基準価額等の推移



設定日	10,000円
期末	11,465円
騰落率	+14.7%

※ベンチマークは、設定日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

※当ファンドのベンチマークは、LBMA金価格（円換算ベース）です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

▶ 基準価額の主な変動要因（2021年8月3日から2022年8月1日まで）

主として、金地金価格との連動をめざす投資信託証券に投資することにより、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金価格（円換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行いました。

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いませんでした。

上昇要因

- ・ 変異ウイルス（オミクロン型）の感染拡大懸念から安全資産需要が高まったこと
- ・ ロシア・ウクライナ情勢の悪化による地政学リスクの上昇から、安全資産需要や資源価格、インフレ懸念が高まったこと
- ・ 為替市場で投資通貨である米ドルが円に対して上昇したこと

下落要因

- ・ 金融引き締め観測が高まったこと
- ・ 米国長期金利、および米ドルの上昇が進行したこと

▶ 投資環境について（2021年8月3日から2022年8月1日まで）

期間における金市場は、下落しました。米ドル円は、米ドル高・円安となりました。

金市場

期を通じて、金市場は下落しました。

2021年後半は、米国長期金利の上昇により上値を抑えられながらも、インフレに対する警戒感や、変異ウイルス（オミクロン型）の感染拡大を受けた安全資産需要の高まりが金価格を支えました。

2022年に入ると、ロシアによるウクライナ侵攻に伴い地政学リスクが高まりました。それに伴う株式市場の下落、資源価格の上昇を受けて、金価格は上昇しました。

期末にかけては、金融引き締めによる利上げ幅拡大が意識され、米国長期金利の上昇やそれに伴う米ドル高が進み、金価格は下落しました。

為替市場

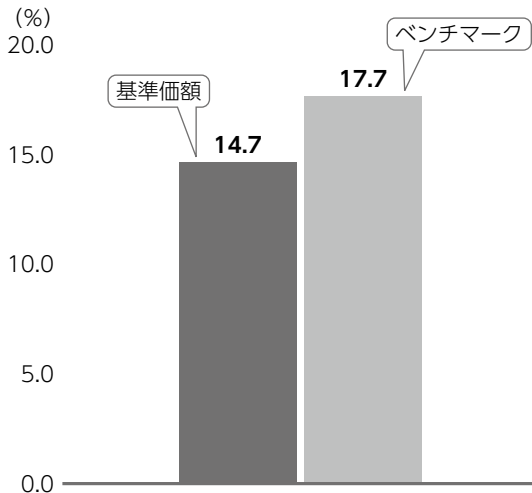
期末の米ドル・円は、期初と比較して円安となりました。米国では利上げ観測が高まり金利が上昇した一方、日本では低金利政策が維持され国内金利の上昇が抑制されたことから、日米金利差が意識され、米ドル高・円安となりました。

▶ ポートフォリオについて（2021年8月3日から2022年8月1日まで）

L B M A 金価格（円換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指し、iShares Gold TrustやSPDR Gold MiniShares Trustを組み入れて運用を行いました。

▶ ベンチマークとの差異について (2021年8月3日から2022年8月1日まで)

基準価額とベンチマークの騰落率対比



当ファンドは、L B M A 金価格（円換算ベース）をベンチマークとしています。

左のグラフは、基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。

【ベンチマークとの差異の状況および要因】

基準価額の騰落率は+14.7%となり、ベンチマークの騰落率+17.7%を3.0%下方乖離しました。

下方乖離要因

- ・売買コストが生じたこと
- ・現地証券保管銀行の証券保管および取引などに関わるコストが生じたこと

2 今後の運用方針

引き続き、L B M A金価格（円換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指しiShares Gold TrustやSPDR Gold MiniShares Trustを高位に組み入れて運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細（2021年8月3日から2022年8月1日まで）

項 目	金 額	比 率	項 目 の 概 要
(a) 売 買 委 託 手 数 料 （ 投 資 信 託 証 券 ）	41円 (41)	0.384% (0.384)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 （ 投 資 信 託 証 券 ）	0 (0)	0.000 (0.000)	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 （ 保 管 費 用 ） （ そ の 他 ）	2 (2) (0)	0.021 (0.020) (0.001)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	44	0.405	

期中の平均基準価額は10,779円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

ゴールド・インデックス・マザーファンド

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2021年8月3日から2022年8月1日まで)

投資信託証券

			買 付		売 付	
			口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
外 国	ア メ リ カ	ISHARES GOLD TRUST	143,640	千アメリカ・ドル 4,994	-	千アメリカ・ドル -
		SPDR GOLD MINISHARES TRUST	359,880	12,933	19,370	751

※金額は受渡し代金。

※銘柄コードの変更等、管理上の都合により同一銘柄であっても別銘柄として記載されている場合があります。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

■ 利害関係人との取引状況等 (2021年8月3日から2022年8月1日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年8月3日から2022年8月1日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2022年8月1日現在)

外国投資信託証券

銘 柄	口 数	期 末		組 入 比 率		
		評 価 額				
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			
(アメリカ)	口	千アメリカ・ドル	千円	%		
ISHARES GOLD TRUST	143,640	4,804	638,600	28.4		
SPDR GOLD MINISHARES TRUST	340,510	11,914	1,583,548	70.5		
小 計	口 数	金 額	484,150	16,719	2,222,149	98.9
	銘 柄 数	<比 率>	2銘柄	<98.9%>		
合 計	口 数	金 額	484,150	-	2,222,149	98.9
	銘 柄 数	<比 率>	2銘柄	<98.9%>		

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

※<>内は、純資産総額に対する評価額の比率。

※銘柄コードの変更等、管理上の都合により同一銘柄であっても別銘柄として記載されている場合があります。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

ゴールド・インデックス・マザーファンド

■ 投資信託財産の構成

(2022年8月1日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	2,222,149	96.7
コール・ローン等、その他	75,404	3.3
投資信託財産総額	2,297,553	100.0

※期末における外貨建資産（2,223,459千円）の投資信託財産総額（2,297,553千円）に対する比率は96.8%です。

※外貨建資産は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=132.91円です。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年8月1日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	2,310,843,370円
コール・ローン等	75,404,083
投資信託受益証券(評価額)	2,222,149,257
未 収 入 金	13,290,030
(B) 負 債	64,569,415
未 払 金	62,815,273
未 払 解 約 金	1,754,080
その他未払費用	62
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	2,246,273,955
元 本	1,959,291,365
次 期 繰 越 損 益 金	286,982,590
(D) 受 益 権 総 口 数	1,959,291,365口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,465円

※当期における期首元本額1,900,000円、期中追加設定元本額2,125,454,474円、期中一部解約元本額168,063,109円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の第6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

日興FWS・ゴールド（為替ヘッジあり）	319,364,303円
日興FWS・ゴールド（為替ヘッジなし）	1,447,011,797円
三井住友DS・ゴールドインデックス・ファンド（為替ヘッジあり）	192,915,265円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の第6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2021年8月3日 至2022年8月1日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 4,522円
受 取 利 息	281
支 払 利 息	△ 4,803
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	186,790,560
売 買 益	254,933,324
売 買 損	△ 68,142,764
(C) そ の 他 費 用 等	△ 258,085
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	186,527,953
(E) 解 約 差 損 益 金	△ 28,134,473
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	128,589,110
(G) 合 計 (D + E + F)	286,982,590
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	286,982,590

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。